

KOMENOYAMA hospital Doctors Voice

2026
Vol. 2

米の山病院 院長 (2026年7月1日より院長就任)

佐田 耕一郎

Profile

1997年に高知大学医学部医学科を卒業後、親仁会に入職。初期研修を経て循環器内科医として長年研鑽を積み、現在は院長を務める。総合診療専門研修プログラムの責任者として後進の育成にも力を注いでいる。



患者さんの困りごとや
悩みごとに応えることが
できる医師でいたい

医師を目指したきっかけは何ですか？

ありきたりですけど、人の役に立ちたいと思ったことですね。とくに、病に苦しんでいる人のなかで、役に立ちたいと思いました。

社会医療法人親仁会を選んだ理由は？

生まれ育った大牟田の役に立ちたいと思っていました。あと、父親が米の山病院の患者だったこともあり、子どもの頃から知っていたのも大きな理由です。

診療科目を教えてください

内科と循環器内科です。そのなかで総合診療医として、患者さんの状態を幅広くとらえて診断しつつ、適切な医療や支援につなぐ役割を担っています。

総合診療医のやりがいとは？

大牟田地区の医療を考えたときに、専門的な医療を提供できることは大切なのですが、そこに至るための調整が重要になります。

すべて専門の医師にお願いすることになると専門の医師も大変ですし、患者さんにも負担がかかります。総合診療医として自分で診られるところは治療しつつ、専門の医師に紹介するという全体のマネジメントにやりがいがあります。

めざす医師像を教えてください

患者さんの困りごとや悩みごとに応えることができる医師でいたいと思っています。患者さんに喜んでもらえることの積み重ねで、医師を続けることができています。

ただ、最近は会議なども多くなっているのので、いかに患者さんと向き合う時間をつくるのが悩みですね。

普段の診察ではどのようなことに気をつけていますか？

患者さんの話を聞くようにしています。とにかく、最初は患者さんの話はさえぎらずに聞きます。

あとは、上から目線にならないように気をつけていますね。対等・平等の姿勢でいる

ことで、患者さんや関係者の方々が話しやすくなると思っています。

印象に残る患者さんはいますか？

一人暮らしの方が内科の病気で診察に来ました。おそらく精神的な病気もあったと思うのですが、病気以外にも生活全体に課題がありました。

ご本人の思いがなかなか聞き取れないなかで、ソーシャルワーカーをはじめとした関係者と連携し、生活全体を立て直しました。

苦手なことはありますか？

人前で喋るのが苦手ですね。実はこのインタビューもちょっと嫌でした(笑)

休みの日には何をしていますか？

テニスをしたり(最近はできていませんが)、庭の手入れをしたり、野菜づくりをしたりしています。

